

生活機能分類普及推進検討ワーキンググループの本年度の活動状況について  
(案)

1. 生活機能分類普及推進検討ワーキンググループについて

生活機能分類普及推進検討ワーキンググループ(以下、「WG」とする。)は、WHO が平成 30 年 6 月に公表した国際疾病分類第 11 回改訂版(以下、「ICD-11」と言う。)に新たに生活機能評価に関する補助セクション(第 V 章)を設けたため、平成 31 年 3 月に開催された第 19 回社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会において、生活機能のレベルの定量化等の必要な検討について実務者レベルでの具体的な対応が求められたため設置された。

2. WG の審議事項及び開催状況

本 WG は、令和元年 6 月 19 日に実施した第一回の会議において、以下を審議事項とすることで合意した。また、活動を行うにあたり、フィールドテスト班、教育ツール班、分類更新・翻訳班及びリコード班の 4 つの検討班を組織し、WG の構成員はそれぞれの検討班に所属して班別に個別テーマごとの検討を進めることとした。

(WG の審議事項)

- ① WHO が刊行する ICF 資料に関する翻訳案の作成
- ② ICD-11 第 V 章を国内適用するにあたって、具体的な活用案(フィールドテスト等を含む)の検討
- ③ WHO から提案される ICF 年次改正案に対する日本からの意見提出案の検討
- ④ その他

(WG の開催状況)

回・開催日	検討内容
第 1 回 令和元年 6 月 19 日	具体的な活動内容の検討、活動班の班分け
第 2 回 令和元年 9 月 12 日	各班の 2 年間の活動計画、活動班の役割分担
第 3 回 令和 2 年 2 月 18 日	各班の 1 年間の活動状況の確認

### 3. WGの主な活動の状況及び今後（令和2年度）の対応

WGにおける現時点までの検討状況及び今後の対応予定は、以下のとおりである。

#### (1) ICD-11 「V章生活機能評価に関する補助セクション」のフィールドテストに向けた対応

V章の有用性、妥当性検証のために国内におけるフィールドテスト実施へ向け、必要な資料を検討し、素案の作成を進めている。今後は、以下の資料の作成を進めるとともに、検者間の信頼性の確保等も検討しながら、ICD-11 V章に関するフィールドテストを実施する予定である。

(これまでの対応)

- ア. V章の各項目の情報収集手法の確定：V章が、WHO-DAS、Model Disability Survey (MDS)、Generic Functioning Domainsの3つの構造からなるところ、既存の質問紙の活用、新規の質問紙の作成など、情報収集手法の確定を行った。
- イ. V章の各項目の翻訳：ワーキンググループ案を作成し、第19回社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会へ提出した。
- ウ. V章の各項目について簡潔で直感的な説明文の作成：支援ツールとして、フィールドテストの対象者に分かりやすい説明文を作成した。
- エ. V章の教育ツールの作成：プロトタイプを作成を行い、今後も作業を継続予定である。

(今後の予定)

- オ. 採点リファレンスガイドの作成：同一の症例を複数人で評価する等の評価を行う際のガイダンス資料を作成する
- カ. フィールドテストの実施

#### (2) ICFに関する対応

##### ① ICFの改正への対応

ICFの改正提案について、WHO-FICの分類・統計諮問委員会(CSAC)で採決がなされるところ、以下の対応を行っている。

(これまでの対応)

- ア. 2019年の改正提案への日本としての対応案作成に協力した。

(今後の予定)

- イ. 2019年採択案件の日本語への翻訳作業を行う。
- ウ. WHOからICFの2020年版の公表が予定されているところ、継続して情報収集を行う。

## ② 既存の評価手法のICFコードへのリコード

生活機能に関係する既存の評価手法が多数存在するところ、既存の評価手法についてICFの分類をリコードする作業を実施している。

(これまでの対応)

- ア. 諸外国で行われているリコードに関する研究成果のとりまとめ。
- イ. リコードに関する基本的なルールの作成。
- ウ. 上記に基づき、要介護認定項目、FIM (Functional Independence Measure、機能的自立度評価法)、BI (Barthel Index、基本的日常生活動作の機能的評価)の項目対応リコードテーブルの作成(今後も継続予定)。

(今後の予定)

- エ. リコード普及推進に向けたリコード辞書(案)の開発に向けた検討

## ③ ICFの教育に関する対応

ICFの普及教育のための調査及び資料の作成を行っている。

(これまで及び今後の対応)

- ア. ICFの国内外の教育の現状のまとめ:資料収集を行うとともに、医療職における教育の現状に関する調査を行った。
- イ. WHO-FIC教育委員会作成のICF e-learningツールの翻訳準備を進めている(今後、翻訳を実施予定)

## 4. その他の活動

- 第8回ICFシンポジウムを企画し、令和2年1月18日に開催した。応募者は、400名を超えたが当日の悪天候により300名弱の参加となった。ポスターは、17題を選定した。
- ICF情報集約サイトの構築に向けた情報収集を行い、4月の公開を予定している。

(参考) 構成員名簿

① フィールドテスト班

☆向野雅彦、浅川育世、大冢賀政昭、近藤和泉、村井千賀、横堀由喜子

② 教育ツール班

☆出江紳一、浅川育世、向野雅彦、村井千賀、森田秋子、横堀由喜子

③ 分類更新・翻訳班

☆山田深、大冢賀政昭、小松雅代、近藤和泉、向野雅彦、森田秋子、  
横堀由喜子

④ リコード班

☆大冢賀政昭、出江紳一、小松雅代、向野雅彦、山田深、横堀由喜子

☆は、班長

# フィールドテスト班

## 目標

- ・国内でのフィールドテスト実施に必要な資料案の作成  
(素案作成/実施/エビデンス収集、妥当性検証及び評価)

## 作業報告

- ICD-11 V章の各項目の情報収集方法の検討と素案の作成
- ICD-11 V章に関連する臨床ツールのエビデンス収集
- ICD-11 V章の簡潔で直感的な説明文作成のためのコンセンサスメETING開催
- ICD-11 V章の採点リファレンスガイドの草案作成

## 成果

- ICD-11 V章の各項目の情報収集手法の確定
- ICD-11 V章の臨床ツールの一つである簡潔で直感的な説明文の作成

## 今後の予定

- ICD-11 V章の採点リファレンスガイドの作成および採点の検者間信頼性の検討
- ICD-11 V章の有用性、妥当性検証のためのフィールドテスト
- ICD-11 V章の臨床での使用を促進するための支援ツールの作成

# 教育ツール班

## 目標

- ・ICD-11 V章の国内適用に向けた指針案作成
- ・普及教育のための参考資料作成  
(ICF理解のための普及教育(ICFとは何か)/国内適用のための教育ツールの翻訳及び作成)

## 作業報告

- ICFの国内外の教育に関わる資料収集と医療職における教育の現状の調査
- ICF e-learningツール(WHO協力センターネットワーク教育委員会作成)の翻訳準備
- ICD-11 V章の教育ツールのプロトタイプ作成

## 成果

- ICFの国内外の教育の現状に関するまとめ

## 今後の予定

- ICD-11 V章の国内適用に向けた指針案作成
- ICF e-learningツールの翻訳
- ICD-11 V章の国内適用のための教育ツール作成

# 分類更新・翻訳班

## 目標

- ・ICF改正案に対する意見提出案の作成
- ・ICD-11第V章の仮訳案の作成
- ・ICF第2版(2020)に向けた準備  
主として既存訳と集積された一部改正日本語訳の統合・整理の検討
- ・総論(Reference Guide)の第V章関連部分の仮訳案及び参考資料案の作成

## 作業報告

- ・ 2019年ICF改正案を監修し、10月9日CSACにおける審議に参加した。
- ・ 第V章の「簡潔で直感的な説明分」の日本語版、英語版の作成に協力した。
- ・ 第V章日本語訳WG案(資料)を作成した。

## 成果

- ・2019年ICF改正案は採択19提案、否決2提案、保留14提案となり、CSACで継続審議中。
- ・第V章日本語訳案を生活機能分類専門委員会に上申した。

## 今後の予定

- ・2019年改正が最終的にまとめ次第、翻訳作業を行う。
- ・第V章ホームページに掲載されている質問文の翻訳作業を行う。
- ・ICF 2020改訂に向けての情報を収集する(FDRG midyear meetingが3月に開催予定)

# リコード班

## 目標

- ・既存研究と連携したICFリコードの実践  
(既存調査資料の収集/分析及び妥当性の検証/リコードテーブルの作成)

## 作業報告

- ・諸外国で行われているリコードに関わる研究成果を調べ、概要について取りまとめた。
- ・リコード基本ルール(案)を作成・確認したうえで、項目対応リコードテーブルを作成した。
- ・ビックデータが収集される要介護認定調査項目、リハビリテーション医療・高齢者福祉分野で活用されるADLに関わるFIM、BIについての項目対応リコードテーブルを作成した。

## 成果

- ・リコードに関する諸外国の主要な研究成果のとりまとめ
- ・要介護認定項目、FIM、BIの項目対応リコードテーブルの作成

## 今後の予定

- ・項目対応リコードテーブル作成作業の継続
- ・点数化ルール作成に向けた臨床家を対象とした調査やフィールド調査の計画・実施
- ・ICFコードのリコード普及推進に向けた「リコード辞書(案)」開発に向けた検討